

[ 参考事項 ]

新技術名：リンゴ園への受粉専用品種の導入と栽培管理のポイント

(平成12～17年)

研究機関名 果樹試験場

担当者 上田仁悦・照井 真 他1名

[ 要約 ]

高接ぎによる受粉専用品種(スノードリフト)の導入箇所は、開心形の普通台樹では骨格枝の背面、主幹形のわい性台樹では樹冠最上部が適しており、接ぎ木後、数年間は、無剪定とするが、樹冠の拡大により栽培品種の管理に支障をきたすようになった場合は、落花直後に切り戻し剪定し、樹冠容積を一定に保つ。

[ ねらい ]

リンゴ「ふじ」の受粉樹不足を改善するため、受粉のみを目的に使用する受粉専用品種(スノードリフト)の高接ぎによる導入箇所や導入後の省力的な栽培管理の仕方を明らかにする。

[ 技術の内容・特徴 ]

1. 開心形に至った樹冠容積の大きいマルバカイドウ台樹へ高接ぎする場合は、樹冠内の無効空間を利用し、主幹に近い骨格枝の背面に接ぎ木する(図1)。
2. 主幹形の樹冠容積がコンパクトなわい性台樹へ高接ぎする場合は、剪定時に切り戻されている樹冠最上部に接ぎ木する(図2)。
3. 接ぎ木後の受粉専用品種は、3～4年間は無剪定とし樹冠の拡大を促すが、一定の容積に達し栽培品種の管理に支障をきたすようになった場合は、剪定によりその後の拡大を抑制する。
4. 受粉専用品種の剪定時期は、開花が終了した落花直後とし、伸びすぎた側枝を一芽残して切り戻す。
5. 落花期の剪定に当たっては、当年の切り戻し剪定で発生する新梢に着生する腋花芽は、その長さに比例して増加する傾向がみられる(図4)ため、一般栽培品種のように樹勢に応じた剪定量の調節は必要なく、機械的に強めに切り戻してもかまわない(図3)。

[ 普及対象範囲 ]

県内全域

[ 普及・参考上の留意事項 ]

接ぎ穂の入手にあたって

受粉専用品種は、平成15年より県内の各産地に各普及センターを通して穂木や苗木を配布している。

接ぎ穂は、高接ぎ病を避けるため、来歴の確かなものを使用するとともに、ウイルスフリー台木以外のわい性台樹で増殖したものは、マルバカイドウ台樹へ接ぎ木しないようする。

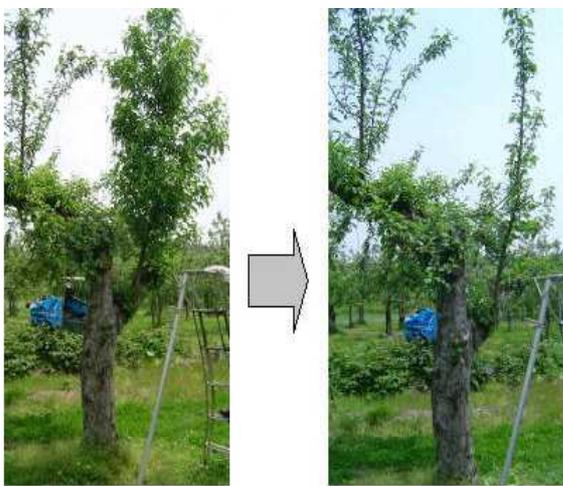
[ 具体的なデータ等 ]



図1 マルバカイドウ台樹への高接ぎ



図2 わい性台樹への高接ぎ



5月下旬の切り戻し前(4年生樹)

切り戻し直後(同左樹)

図3 落花期の切り戻し程度

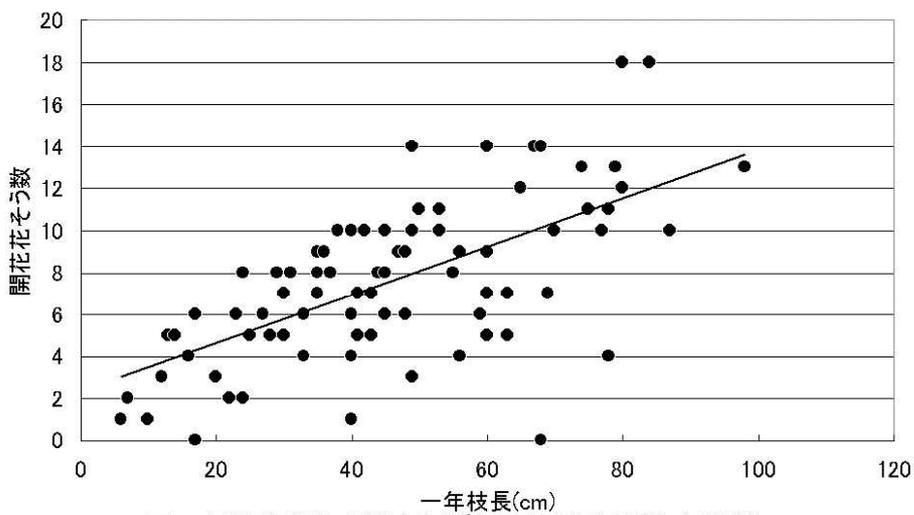


図4 切り戻し剪定で発生した新梢の長さ翌年開花した花数

[ 発表文献等 ]

なし